

平成27年度 第1回 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会
議事録

開催日時	平成27年10月6日(火) 午前10時00分開会～12時00分閉会
開催場所	安堵町役場 3階31会議室
委員長	野口委員
出席者	野口委員、森田委員、出井委員、和田委員、 御宮知委員、角野委員 (以上6名)
欠席者	(名)
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長あいさつ 3 委嘱状交付 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員長の選任について (2) 安堵町人口ビジョン(案)について (3) 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について (4) その他 5 閉会
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度第1回安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会次第 ○資料1 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置要綱 ○資料2 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会出席者名簿 ○資料3 座席表 ○安堵町人口ビジョン(素案) ○安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	1. 開会 ○開会あいさつ
西本町長	2. 町長あいさつ ○あいさつ
事務局	3. 委嘱状交付 それでは引き続き、委員の委嘱を行いたい。 ○町長から各委員へ委嘱状の交付
事務局	それでは、本日の議事に入る前に配布資料の確認をさせていただきたい。 ○配布資料確認 なお、本会議に安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定業務を委託しているコンサル会社を同席させていただいている。 安堵町行政及び事務局の紹介は、座席表の配布をもって代えさせていただきたい。 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置要綱は、委員の皆様様の招集等の都合により、先に作成させていただいた。第6条により本会議は公開が原則とさせていただいている。本来であれば、本会議にお諮りすべきところだが、異議がなければ原文通りとさせていただきたい。ご了承願いたい。なお、設置要綱第6条第2項の規定により、委員の過半数以上のご出席を賜っているので、本会議が成立していることをご報告申し上げます。 それでは、次第に従い進めていきたい。
森田委員	議会から代表として出席している。この座席表は当たり前ではないかと思う。たまたま私は今議長をしているので、議会の代表としていただいたと解釈している。しかし、議長が1年～2年で交代することも考えられる。これは区長会も同じである。あくまでも、議会の代表の森田であり区長会の代表である出井委員ということで続けていただきたい。そうしないと、議長や区長会の会長が変わる度に、内容のあるものが途切れてしまう。そのあたりについて、町長どうか。

西本町長	その通りである。この総合戦略そのものが、今年度中に作成ということで、恐らく今年度中であれば議長も区長も変わらないだろうということで、こういう表現になったと思う。
森田委員	そういうものであればいいが、例えば社会教育委員にしても、諸団体のその時の長が出てくる。例えば3～4年の任期であれば、1年で交代しては意味がない。そういうことが諸々のことで見受けられるので、あえて提案させていただいた。
西本町長	できる限り今年度の早いうちということなので、恐らくはと思うが、何かのことで交代されることも万にひとつもあると思うので、この表現は「代表」ということで変更しても、別段やぶさかではないと思う。
森田委員	あまり肩書にこだわらなくても、内容のあることを継続的に議論していかないと、途切れてしまうことが多々ある。それは事前に相談し、やっていただくほうがより内容のあるものができるのではないかと思う。
西本町長	出井委員はそれでよろしいか。
出井委員	結構である。
事務局	それぞれの「代表」という形で、名簿は訂正させていただきたい。
	4. 議事
	(1) 委員長の選任について
事務局	要綱第5条第2項の規定により、委員長及び副委員長は委員の互選により定めることとなっている。どなたかご意見はあるか。
森田委員	事務局でご推薦いただきたい。
事務局	事務局一任のお声をいただいたが、よろしいか。 (委員一同異議なし)
事務局	それでは、委員長に奈良学園大学の元教授で、現在客員教授である野口隆様をお願いしたい。野口先生いかがか。

野口委員	<p>皆さんにご賛同いただければ受けさせていただきたい。</p> <p>(委員一同拍手をもって賛同)</p>
事務局	<p>続いて、副委員長に南都銀行法隆寺支店・支店長の和田勝也様をお願いしたいと思う。</p>
和田委員	<p>若輩者だが、皆さんのご賛同をいただけるのであれば。</p> <p>(委員一同拍手をもって賛同)</p>
事務局	<p>委員長、副委員長が選任されたので、議事の進行については委員長に交代させていただきたい。</p> <p>(野口委員、和田委員 座席移動)</p>
野口委員長	<p>○あいさつ</p> <p>(2) 安堵町人口ビジョン (案) について</p>
野口委員長	<p>事務局より次第4 (2) について説明願いたい。</p>
事務局	<p>○地方創生の趣旨について説明</p> <p>○資料「安堵町人口ビジョン (素案)」に基づき説明</p>
野口委員長	<p>今の説明について、ご意見或いはご質問があればお願いしたい。</p> <p>事務局にお尋ねするが、この委員会の終了はお昼頃と考えていいのか。</p>
事務局	<p>はい。お昼までには。</p>
出井委員	<p>今ご説明いただいたことについては、ここに出席されている方は基本的認識としてあると思う。私のところは笠目地区と言って、昔から斑鳩町と隣接している。家は江戸時代から続いているが、日曜百姓をしながら定年までサラリーマンをしていた。安堵町について関わったのは、定年後である。生活圏としては、ほとんどが斑鳩町である。山もないし平坦地で、駅もインターチェンジも近くにある。安堵町には駅がない。安堵町とはどこかと聞かれて、斑鳩と法隆寺の間だと説明する。私は住んでいて便利な土地だと思うが、認知度が低い。奈良県民でも安堵町はここだとすぐに言える人が少ないと思</p>

野口委員長	<p>う。安堵町独自の施策で活性化することも大事だが、大和郡山市や斑鳩町と連携しないといけない。安堵町には貫通した道路がない。直通で繋がっていないのは、非常に問題ではないかと思う。</p> <p>2つ大事なことを言われたと思う。ひとつは、結構便利なところだが安堵町はどこだと、駅がないから分かりにくい。その対策は必要である。もうひとつは、今でも結構住みよいのは隣接の機能も活用しているということである。他地域と連携しながらすればいい。その重点が道路であるということが結論だったと思う。これについて、何かご意見があればお願いしたい。</p> <p>人口ビジョンの次に、今度は総合戦略の議論になる。その時には、事務局以外の皆に発言していただこうと思っている。</p>
森田委員	<p>出井委員から色々な思いをお話いただいた。全体的に安堵町の人口減少というのは、若い世代の町への満足度があると思う。10年～20年前は、土地も安価で求めやすいということで、造成地域に引っ越して住居を構えられても、住んでみて例えば子どもの教育、福祉、環境等、行政として兼ね備えなければならない点に多々問題があり、満足できない。もちろん交通網もそうだが、当初ここに永住しようと思って来られている方が9割だと思う。しかしながら、途中で出て行かれる。若い人に不安を持たせるような環境でないか。私が町の職員になった時には、色々な施策が立ち遅れていると感じた。特に福祉の面である。ここ5年～10年で近隣町に近づいてきたという思いもする。そのあたりのことについて、これから特に若い世代にどう安心感・満足感を持ってもらうか。安堵町に一旦転入された方を、どう食い止めるのかに重きをおかないといけない。いくら転入されても、満足度がなく不安な面が多ければ、すぐに転出されることが考えられる。今後は、戦略的に若い世代に満足をしていただける行政をしていく必要がある。</p>
野口委員長	<p>おっしゃる通りである。まず現状の不満をどう解消していくのか。総合戦略の中で絶対に解消して欲しいことである。</p> <p>他にあるか。</p>
角野委員	<p>私は4年程前までアメリカに住んでいた。アメリカ生活は4年程だった。こちらに来てまず思ったのは、車が小さい。それと、歩道がほとんどなく、車道が軒先まできている。すごく圧迫感を感じた。アメリカのサウスキャロライナというすごく田舎だったが、日本の安堵町のようなものである。先ほど出井委員がおっしゃっていたように、社会的インフラの不備が非常に大きいと思う。私は54歳ぐらいに三郷町に転入して来たが、それまでは大阪に住まいの本拠はあった。</p>

野口委員長	今はどこにお住まいなのか。
角野委員	今は三郷町である。三郷町はベッドタウンで非常に良いのだが、安堵町はおっしゃった通りだと思う。住み心地がよく、平坦で何も遮るものがない等、良いところはたくさんあるのに、何故か。私の会社は住江織物だが、法隆寺にあると言わざるを得ない。会社で初めて安堵町という住所を知った。それまでは法隆寺の会社だと思っていた。安堵町は、若い人達にとって定着すべきところではないと思われている節がある。
野口委員長	お三方からそういうお話があった。他に発言しておきたいことがあれば、お願いしたい。
和田副委員長	<p>小さい子どもを育てておられる若い世代を、どう取り込んでいくおかというお話のところだが、私自身子どもが3人いる。家内がフルで働いているので、3人とも保育園に行かせていた。その保育園の延長保育が非常に充実していた。朝早くから夕方まで結構遅くまで受けてもらえて、送り迎えをしてもちゃんと定時に間に合うという状況だった。その保育園が、私の住んでいるところで一番延長保育の時間が長かったので、かなり定員をオーバーして受けておられた。やはり、保育園の充実は非常に大事だと考えている。子どもを出産された女性の方に話を聞いていても、育児休業が明けて戻って来られると、一番相談を受けるのが延長保育のある保育園を知っているかということである。昔は、銀行は寿退社が多かったが、最近は育児休業が明けて働かれる方が多くなってきている。相談を受けるケースがかなりある。若い世代の流出が多いというお話があったが、そのあたりが非常に重要だと感じている。</p> <p>それから、これは特殊なケースだと思うが、私の家内は小学校に勤めているが、その小学校では帰国子女率が非常に高い。パナソニックが海外から戻って来られた時に、噂を聞いてたくさん来るらしい。何か特別なことをしているわけではなく、帰国子女の数が多いのでいじめ等は起こらないということで、相乗効果でたくさん集まるようである。そういう施策について、どうすればいいのかはよく分からないが、小学校就学前、或いは就学児が安心して通えるまちづくり、体制づくりが若い世代を引き込む大きな目玉になるのではないかと、普段の生活の中で感じている。まさしく森田委員が先ほどおっしゃった通りだと考えている。</p>
出井委員	実は私も民生委員児童委員をやっている。主任児童委員から常に話が出るのは、安堵町にも小児科があり、その先生に聞くと、ある程度の年齢までみているのに、就学年齢になると出ていってしまう。笠目地区も子ども会が少なくなり、中学校になると出ていってしまう。昔ながらの一軒家の人はな

	<p>かなか動かないが、マンションやアパートに住んでおられる方は、サービスの良いところに動いてしまう。私のすぐそばにも保育園があって、非常に満杯である。アパートやマンション住まいの人は、どうしてもそういう傾向がある。若い人達がせっかく安堵町へ来てくれたのに、ある年齢になると子育て支援の良いところへ行く。今の若い親は、子育ての際に不安を持っている。そういう人達が安心できるように、斑鳩町のいきいきサロンは、ずっと一週間ある。ボランティアで子どもをみていて、子育ての相談等も受けておられる。安堵町の場合は人口が少ないので、毎日開くことはないと思うが、そういうことに対して、主任児童委員からは是非充実させて欲しいという意見が毎回のよう定例会で出てくる。</p>
野口委員長	<p>私からもひとつだけお願いがある。8～9ページに人口移動の話が出ている。ご説明の通りだが、20歳からが減って意外なことに45歳から増えている。その理由は何か。具体的にどういうことがあるから、こうなっているのか。そんなに人口の多いまちではないので、入ってきた人がどこの誰かは分かる。どういうことで40代の方が抜けて、逆に入ってくる人は何故入ってくるのかが気になると思う。後ほどのアンケートの分析で分かるところもあるかと思うが、追及して欲しい。原因の発見なしで解決はない。</p> <p>(3) 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について</p>
野口委員長	<p>それでは、議事(3)について事務局より説明願いたい。</p>
事務局 SRC	<p>○資料「安堵町まち・ひと・しごと創造総合戦略(素案)」に基づき、総合戦略の概略について説明</p>
野口委員長	<p>具体案については次回ということで、具体案を作るための参考になるような意見を皆さんからいただきたいと思う。</p> <p>「新生活を始めるなら安堵町」というのはすごく良いと思うが、現実には出て行く人が結構多い。住み続けたくないということだと思う。「住み続けたいまちづくり」みたいなことを、目標に入れて欲しい。町長はどう思われるか。</p>
西本町長	<p>「住んでみたい、住んでみたら終の棲家になりたい」というまちづくりが、この部分の肝になる。まず出ないということが大事なことだと思う。</p>
御宮知委員	<p>完璧なビジョンだと思うが、結局は中味が一番問題になってくる。このビジョンを達成させるために、具体的にはどんな施策をするのが一番問題だと思う。</p>

野口委員長	本当にその通りだと思う。
御宮知委員	教育も含めて、生活環境を更に良くしていただく、一言で言えばそういうことになると思う。
野口委員長	教育の問題、福祉の問題があるが、行政はどうお考えか。まず、子育てや教育について。
楮山教育長	先ほど副委員長のお話を聞かせていただいて感じたことだが、帰国子女がどんどん日本に帰って来て、そういう子ども達が集まる学校にはいじめもなくなってきたという話だった。今、文科省ではここ2～3年の間に小中一貫校を制度化していくことになっている。本町においては、小中一貫校を目指していくには、校舎は離れているが、比較的ビジョンとしてはやりやすいと思う。まずは、小中一貫校を実施することで、これだけ子ども達に良いことがある、魅力があるということを、もっともっとアピールする必要がある。それが引いては、先ほどおっしゃっていた帰国子女の子ども達が帰って来て、その学校へ行けばうちの子は生き生きと学校生活を送れるということであれば、その町へ住もうということにも繋がってくると思う。そういうことを目指すのが、次の方向性かと思っている。
野口委員長	あと、子育て環境等についてご発言いただけるようであれば。
寺前統括理事	少時的が外れるかもしれないが、国が人口減少で一極集中になっていると、子育ても含めて打ち出している。町の人口を増やそうと思えば、町で出産しない限りは、所詮取り合いになるだけである。根本的に考える必要があるのは、ここにいる人がいかに定住していかに人を増やしていくのか。そういうことを考えた時、もちろんライフラインもあるだろうし、子育て支援もあるだろう。アパートに住んでいる方が一生アパートに住むということは、まずないと思う。ならば、そのアパートから安堵町に土地を買って家を建ててもらおうとか、安堵町に定住していただくためには、どう魅力的なことをつくっていくのか。行政としては財政もあるし、全てを賄うことはできないにしても、知恵を絞っていく必要があると切に考えている。
野口委員長	他にご発言があれば。
近藤総務理事	町職員の中でも、安堵町で生まれ育ちながら、結婚を機に近隣の町に一戸建てを買って出る者が多い。子育てについての魅力がないのかもしれない。職員がそうしながら、住民にいてくれと言うのもという気もする。川上村も

野口委員長	<p>全国で5本の指に入るくらいの形で消滅していく町である。村内で生まれ育って役場に勤めている者が外へ出て行くのに、どう歯止めをかけるのかなんておかしい。安堵町も同じような状況がある。色々と問題解決が必要だと思う。</p> <p>子どもを産みたいと思った時に、何故町外に出ることにしたのかというのは、すごく良いサンプルだと思う。是非、根掘り葉掘り聞いていただきたい。</p>
西本町長	<p>最近、どこかへ引っ越そうという時はネットで、まず若い夫婦であれば子育てしやすい町の情報を取りながら選定されることが多いと思う。例えば、保育園の待機児童をなくすとか、或いは小児医療の軽減等は、これからの大きなキーポイントになると思う。教育については、教育長が100点満点のお話しておられたが、例えばあそこの学校へ行けば進学がしやすいというのは、大きな選定のポイントになっているのではないか。本当はそういうことが論議できれば、掘り下げた話ができると思う。副委員長から帰国子女の話が出た。恐らくそれは、大都会の学校、或いはそれに近い学校が顕著な例かと思う。何故かと言うと、大手企業がそこへ集中しているから、海外から帰るとだいたい大阪・京都・名古屋あたりの学校に行く。我々が帰国子女の対策をしたところで、恐らくあまりないと思う。これは弱みにも繋がるが、これも極めて地域性のある話だと思う。次はそういうところも掘り下げた論議ができればと思う。</p>
野口委員長	<p>本当にその通りだと思う。こういう委員会での発言も大事だが、実際に計画を作られるレベルで具体的な議論をしていただきたい。</p> <p>時間も迫ってきたので、委員の方々は恐縮だがお一人1分から2分ぐらいで、最後に一言ずつお願いしたい。</p>
森田委員	<p>もうひとつ噛み砕いて話をすれば、先ほどの町職員が結婚を機に外へ出て行くというのは、まさに現実である。その前に、私の息子2人も大学まで安堵町に住んでいたが、2人とも斑鳩町で家を建てて出て行った。自分の家庭を振り返って何故かと考えてみたら、やはり教育である。子どもができれば安堵町の学校には行かせないと最初に言われた。これが現実である。そこをしっかりと見定めなければならないのは、我々の今後の責任である。これを契機にしっかりと考えていかないと、私達の人口の問題はなかなか解決できない。理想ばかり並べてもできない。</p> <p>もう1点。例えばマラソン大会にしても、コースも色々考えてよそからも来てもらわないと、安堵町のPRができない。来年町制30周年ということで、安堵町のマラソン大会に参加してもらおう機会を作りたいと、先ほど教育長にお願いしていた。根底はそこである。</p>

出井委員	<p>仕事の話だが、ここに住江織物の方がおられるが、笠目でも住江でお世話になっておられる方がたくさんいる。スマートインターができて、安堵町も工業地帯と認定された。物流が非常に便利になった。田んぼばかりのところだが、将来的に工場等に来ていただいて、そこで働けば、当然定年まで働ける。定住となると、働く場所があることが非常に大事である。土地柄から、そういう計画が今後出てくると期待している。</p>
御宮知委員	<p>私は安堵町で生まれ、安堵小学校・中学校を卒業して、高校・大学は大阪へ行っていたが、会社も安堵町である。安堵町にずっと住んでいるので、安堵町について何か言えと言われると鈍感になっていると思う。安堵町の人口が将来的に減っていても、ひとつの自治体として存続できるように考えてやっていって欲しい。</p>
角野委員	<p>誤解しないで欲しいが、後継者を育てる云々がアンケートにもあった。そこにはあまりこだわらないでいただきたい。消費者が変わっていくように、生産者も変わる。どちらも世代交代してきているので、そんなに重視する必要があるのかと思っている。それだけご注意くださいと思う。</p>
野口委員長	<p>それは要するに、中小企業の場合の後継者の継承問題は、そんなにたいしたことではないという意味か。</p>
角野委員	<p>そういうふうに私は捉えている。</p>
野口委員長	<p>むしろ、企業の新陳代謝があったほうが良いということか。</p>
角野委員	<p>我々の目で若い者を見るからそういうことであって、消費者から見た生産者の立場は、同じように変わっていくという考え方である。</p>
和田副委員長	<p>今年の4月に法隆寺支店の支店長として赴任した。周りの先輩達からよく聞かれるのは、どんな会社があるのか、何を作っているのか、地場産業は何かということである。先ほどおっしゃっていたが、雇用を創出する企業の誘致を是非お願いしたい。雇用を大きく創出できる製造業を誘致いただけるような施策を是非とも推進して欲しい。</p> <p>それと後継者問題については、銀行も非常に注目している。いわゆるM&A、技術はあるが残念ながら後継者がいない場合について、他の地域の似たような業種、或いは業種は違うがそういう業種に進出したいと思っているところとマッチングをするような形で推し進めているケースがある。これは南都銀行だけでなく、各金融機関で様々な取組を評価しているところである。</p>

野口委員長	<p>全てが上手くいくのかと言うとそうではないが、そういう形で今あるものをどう形を変えて継続していくのかというところも大事である。</p> <p>行政の産業政策にしても、南都銀行のお知恵を借りながら効果のある施策を検討して欲しい。</p> <p>この創生総合戦略について、もう一言という方があればうかがいたい。なければ、(4) その他に進みたい。</p> <p>なければ、事務局にお返ししたい。</p> <p>(4) その他</p>
事務局	<p>次回委員会の予定だが、安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に基づき、具体的事業、施策の策定を行いたいと思う。でき次第日程調整をさせていただき、次の会議とさせていただきたい。</p>
西本町長	<p>大体いつぐらいか。</p>
事務局	<p>11月中にもう一度開催させていただき再度検討して、1月中に最終回を開催させていただく予定である。</p>
野口委員長	<p>年内に1回、来年初めに1回ということである。</p> <p>以上をもって本日の議事は全て終了した。どうもありがとうございました。</p> <p>5. 閉会</p>